

世界中が教室に

日本も海外も気になる人のための

国際文化案内人図鑑

名古屋学院大学国際文化学部



Culture & Human Resources
NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY



Index

P3	学部長挨拶
P4	専攻紹介【グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学】
P8	教室から外へ飛び出そう
P10	李 相勲 Lee Sanghoon
P12	鹿毛 敏夫 Kage Toshio
P14	金城 美幸 Kinjo Miyuki
P16	工藤 泰三 Kudo Taizo
P18	近藤 泉 Kondo Izumi
P20	佐伯 奈津子 Saeki Natsuko
P22	佐竹 眞明 Satake Masaaki
P24	柴崎 全弘 Shibasaki Masahiro
P26	末松 大貴 Suematsu Daiki
P28	鈴木 乙都 Suzuki Oto
P30	鈴木 啓司 Suzuki Keiji
P32	中田 昭一 Nakata Shoichi
P34	樋口 勇夫 Higuchi Isao
P36	増田 あゆみ Masuta Ayumi
P38	宮坂 清 Miyasaka Kiyoshi
P40	メイヨー・クリストファー Christopher Mayo
P42	山本 淑雄 Yamamoto Toshio
P44	吉田 達矢 Yoshida Tatsuya
P46	一歩先を学ぶための文献リスト

名古屋学院大学「国際文化学部」で、 「世界」に通じる力を

名古屋学院大学 国際文化学部 学部長 鹿毛敏夫

名古屋学院大学国際文化学部は、2025年4月に開設10周年を迎えた若さあふれる学部です。国際文化学科は、「グローバル文化」「国際協力・共生」「国際日本学」の3専攻に分かれており、学生たちは、それぞれの専門領域に沿って、多様性あふれる「国際文化」を体系的に学ぶことができます。

入学した学生たちは、学年進行とともに、

- 1年次 = 異文化に触れるための基礎的な教養を育む
- 2年次 = 世界の様々な文化について理解を深める
- 3年次 = 専門ゼミに所属し、国際社会に触れて対話と交流を重ねる
- 4年次 = 身につけた語学力+国際的な教養を社会にアピールする

という活動に努めることで、

真の国際人、地球市民を目指しています。



日本をはじめ世界中の国々の文化を理解し
国際社会の架け橋となる人材を育てる



学生とともにワイン訪問



社会人OB・OG交流会

これが、本学国際文化学部の共通した人材育成目標です。本学部には、学生の皆さんがその目標を達成するのを支援するために、多様性あふれ優秀かつアクティブなスタッフ（先生たち）がそろっています。

本冊子『世界中が教室に 日本も海外も気になる人のための国際文化案内図鑑』は、名古屋学院大学国際文化学部での「学びの手引き書」です。学部には、どんな先生がいて、どんな授業や研究をしているのか。各先生の専門分野やゼミ演習の内容、先輩学生の卒論タイトルから、自分年表、座右の銘、趣味、お薦め本などにいたるまで、一人ひとりの個性あふれる教授陣の生の情報を写真付きで紹介いたします。本学国際文化学部に興味・関心のある高校生の皆さんは、この冊子を進路選択にぜひ役立ててください。また、すでに本学部で学ぶ皆さんも、科目やゼミ演習の選択に活用してもらいたいと思います。

さあ、私たちと一緒に、「違いを超えて、世界に挑む力」を培っていきましょう。

国際文化学部で身につけてほしいのは、世界を見通す確かな力。近年、日本を拠点としながら世界のマーケットを見据える企業は多く、また、外国企業の日本進出も珍しくありません。さらに外国人観光客や外国人労働者の増加など、国内においてもグローバル人材の必要性が増えています。本学部では、あらゆるシーンに応えられるよう、さまざまな価値観に柔軟に向き合える国際感覚を養います。加えて、国際協力の現状を理解し、グローバル社会で活躍できる人材を育成します。

学部の特色。



Point 1
多文化理解・国際交流

世界の“まだ”知らない文化を幅広く学べる。

知らない文化を知ることは、世界と近づく第一歩。同時に、自身の文化を知ることも重要です。知っているから違いがわかり、いっそう理解を深めることができる。物事を一面だけで捉えず、あらゆる視点から探っていく。国際交流の基礎となる、相互理解を学びます。

エリア特有の文化から各国の背景まで、広く深く。

ヨーロッパ文化

アメリカ文化

アジア文化

日本文化

様々な分野で活躍できる人材に成長。

言語は、相手とコミュニケーションを取るための道具です。わかる、話せる、だけでなく、相手が言いたいことを本質的に理解し、自身の意見を明確に伝えること。それが、国際シーンで求められる語学力です。英語はもちろん、第2外国語としてドイツ語、スペイン語、フランス語、中国語のいずれかを履修。さらに、韓国語、インドネシア語、フィリピン語を学ぶこともできます。

英語

第二外国語

ドイツ語、スペイン語、
フランス語、中国語

Point 2
語学教育



Point 3
留学・フィールドワーク

留学やフィールドワークを通じた実践的な学び。

「知っていること」が「体験したこと」が変わるとき。それは、あなたが想像している以上の財産になります。留学先で、講義から学んだ異文化に触れる。フィールドワークを通じて、日本と世界の課題に真剣に向き合う。百聞は一見にしかず。その意味を、体感してください。

中長期留学

短期留学

国内フィールドワーク

海外フィールドスタディ

想定される進路

- 観光・旅行・貿易・流通等の一般企業
- 国家・地方公務員
(地域・外国人支援行政)
- 多文化交流事業(NPO)、民間国際協力団体(NGO)、等

過去3年間の主な就職先

(株)日本旅行	リゾートトラスト(株)	豊橋信用金庫
(株)エヌオー	LEGOLAND Japan(株)	碧海信用金庫
(株)エイチ・アイ・エス	(株)ユー・エス・ジェイ	(株)スカイシーズ
名鉄観光サービス(株)	(株)ソラシドエア	ユニー(株)
(株)名古屋観光ホテル	(株)ドリームスカイ名古屋	(株)ジェイアール東海高島屋
ルートインジャパン(株)	ANA中部空港(株)	積水ハウス
(株)ホテル銀水荘	名古屋鉄道(株)	ほか



1

コミュニケーション

英語、ドイツ語、フランス語
スペイン語、中国語
韓国語他アジアの言語、ことばと音声

2

地域理解

フィールドワーク
欧米文化総論、中国文化社会論
イスラム世界論、南アジア文化社会論
日本のポップカルチャーとアジア
現代中国事情

3

国際文化

グローバル社会文化論
異文化コミュニケーション論
比較文化・社会論
世界遺産論

グローバル文化
専攻の
3分野

グローバル文化
専攻

さまざまな国や地域の文化を学び、異文化理解を深めませんか? 「グローバル文化専攻」では、世界的な視野からヨーロッパやアジアなどの国や地域を比較することで、海外の文化に関する知見を広めます。地球市民として世界を複眼的に見通すことのできるようになるのが目標です。

文化理解で大切なことは「現地の事情は現地のことばで学ぶ」姿勢です。英語や第二外国語を学ぶ段階で、豊富な海外留学プログラムを通じた実践的な学びを体感することで、それまで知らなかった海外の文化を経験できます。そこで見つかる新たな感覚と驚きが、みずから発信するコミュニケーションスキルを向上させ、未来のグローバルな文化理解力につながります。

この専攻の主な科目に、グローバル文化がどのように現代まで発展してきたのか、その過程の意義や課題について取り上げる「グローバル社会文化論」、異なる文化や社会的背景をもつ人びとが、どのようにお互いが理解し尊重し合えるのかを学ぶ「異文化コミュニケーション論」、そして世界各地に存在する宗教の違いや共通性について学ぶ「比較宗教論」などがあります。言語をはじめ歴史や文学、哲学、心理学、芸術など、多角的な視点から文化を幅広く学ぶことで、グローバル時代にふさわしい教養と専門的知識を備える学びを展開しています。



世界中の子どもたちがちゃんと学校に通えるようにするにはどうしたらいい？ 女性や性的少数者など弱い立場の人びとがより生活しやすい社会をつくるには何が必要？ プラスチックごみによる環境破壊はどうしたら防げる？ 国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」に示されるように、わたしたちは現在多くの地球的課題を抱えています。「国際協力・共生専攻」では、これらのさまざまな地球的課題に対し、多角的な眼をもって理解し、主体的に考え、国内外の人びととの協力を実現しながら解決・改善に向けて行動できる力を身につけます。

この専攻では、日本に住むみなさんの生活がどのように国際社会の諸問題と関係しているのかについて考える「国際関係論」、世界における格差・貧困・南北問題・グローバリゼーションなどに触れながら地球市民の一員としてわたしたちがどのように国際協力に貢献することができるかを考察する「国際協力論」などの授業を受講するとともに、「国際協力スタディツアー」や「国際ボランティア・プログラム」への参加を通し、地球的課題に対応するための実践的な知識・技能を習得することができます。

みんなが平和に暮らせるよりよい社会づくりに貢献したい——そんな気持ちを抱いている人、ぜひ「国際協力・共生専攻」で一緒に学びましょう！



みなさんは、「日本」の文化や歴史を知っているつもりでいませんか？ たとえば、日本史教科書に出てくる「中国人倭寇」。倭寇(日本人海賊)なのに中国人とは、どうしたことなのでしょう？ また、奈良時代と思っていた「東大寺大仏殿」が、江戸時代元禄文化の建築物として紹介されている訳を説明できますか？

知っているようで実は学問的に考えたことがなかった「日本」について、国際的観点から研究するのが「国際日本学専攻」です。この専攻では、国際文化を学ぶ前提となる日本文化の特質を「日本文化論」で学び、「日本の国宝・文化財」「日本地域史論」などの科目で深く掘り下げます。日本に軸足を置き、世界史と日本史の関係を明らかにする「日本対外関係史」、アジア諸国との繋がりを考察する「日本アジア交流史」、ヨーロッパとの関わりを考える「日欧交流史」などの特徴的な科目も学べます。

グローバルな視野を意識しつつ「日本」のローカルな特性を探究することで、海外で日本文化を紹介したり、海外からの来客に日本を紹介したりする知識や能力が身につくでしょう。日本の歴史・文化・社会を熟知した「国際人」として、海外展開する企業や観光・航空・ホテルなど日本文化を海外に紹介する企業、行政機関の外国人対応部署などでの活躍をめざすみなさんに最適の専攻です。



スタディツアー

教室から外へ

スタディツアーでは、世界のさまざまな国や地域を訪れ、種々の文化や課題を五感をとおして学びます。地域に受け継がれ実践されている文化を観察しそれについて話を聞き、また貧困や人権、環境、開発などのグローバル・イシュー（地球的諸問題）の現状を自分の目でみて、グローバル文化や国際協力の意義や課題について考えます。地域に生きる文化を理解し、また共感や配慮とともに提案する姿勢や力は、グローバル化の進む社会でますます必要とされていくでしょう。

飛び出そう

「土との対話」を主題としたフィールドワークを行います。美濃地域に足を運び、陶土の専門家とともに、土と対話することをとおして、土から「文化」が生ずる過程に自ら立ち会います。地域に古くから受け継がれてきたやきもの文化は、身の回りにありふれた土が、人の手と心により形と意味を与えられ暮らしのなかで生かされ続けたことにより、形成されたものです。原点としての土に向かいあい、触れあい、感じあい、話しあい、土の感じを自らの感じとする。そのような双方向の対話をおし、原初の、文化の生起を考察します。

フィールドワーク

土

李相勲

Lee Sanghoon



宗教は人間と世界を
知るうえでの特急券

いま大学生だったらやりたいこと

留学、ですかね。
数十年前に大学生だった頃、
留学に行かなかったのが……

専攻 **グローバル文化** / 国際協力・共生 / 国際日本学
(専門分野) 宣教学・日韓キリスト教関係史

「国際文化」との出会い

子どもの頃に通っていた教会には、カナダから日本に派遣されていた宣教師一家がおられました。よくそのご家庭に招かれることがありましたが、そこで話される言語(英語)や料理はもちろん、親子間の関係のあり方などが自分のそれとは異なるものであると感じていました。今から考えると、それがわたしにとって最初の異文化との出会いだったのではないかと考えています。また見方を変えれば、日本で生まれ育った在日コリアン3世であるわたし自身が、日本と韓国という二つの異文化の出会いから生まれた存在であると言えるのかもしれない。

趣味

中学生時に美味しいラーメンと出会ってしまって以来、ラーメンの食べ歩きが趣味となりました。以前には週に10食近くラーメンを食べていた時期も…。

▶ぜひみてもらいたい世界遺産
ギリシャのメテオラ(岩壁上に建つ修道院)



大学院の卒業式↑
(ニューヨーク)

←後の留学先・延世大学にて
(韓国初訪問時)

↓小学生からいままでの自分年表

- 小学校:横山光輝の漫画『三国志』にはまる
- 中学校:レベチなラーメンを知り、ラーメン道に入門
- 高校:部活に入るタイミングを逃して帰宅部に
- 浪人時代:パスポートをとって母国である韓国を初訪問
- 大学:初めて日韓以外のアジアの国々を訪問
- 留学(ニューヨーク):ハーレム近くの学校でキリスト教神学を学ぶ
- 留学(ソウル):韓国にてキリスト教神学と韓国語を学ぶ

座右の銘

「死を覚えよ」

(生きている時間を大切かつ豊かに用いるため)

演習

日本および世界のマイノリティ問題を取り上げつつ、すべての人にとって生きやすい「共生社会」の実現に向けて、どのようなことが課題であり、また何が必要であるかなどについて考えます。またクラス内での発表やディスカッションだけでなく、関連する問題に取り組んでいる団体などを実際に訪問することを通して、この問題についての学びを深めていきます。訪問先としては、大阪のコリアタウンで活動する団体などを考えています。



ソウル近郷の山で友人らと→
(韓国留学時代)

李流学びの 解説!!



↑メテオラにはこのような修道院がいくつも!

授業

「キリスト教文化論」

キリスト教は良くも悪くもその歴史において、世界に様々な面で影響をもたらしてきました。文化の面においてもそうであったと言えます。授業では、音楽や美術、建築などに焦点をあてつつ、キリスト教文化が時代や地域によってどのように変化していったのかについて、音楽や美術作品などを鑑賞しつつ学んでいきます。また日本のキリスト教文化がわたしたちとどのように関わっているのかなどについても探究します。きっと思った以上にキリスト教文化がわたしたちの生活に浸透していることを発見することになるでしょう。

▶お薦め本

米原万里(2004)

『嘘つきアーニャの真つ赤な真実』

角川文庫

日本共産党の幹部であった父親の仕事の関係上、当時社会主義国家であったチェコスロバキアという国において9歳から14歳までを過ごした著者の稀有な経験をもとに書かれた本です。異なる文化の存在や「人間」について深い洞察を与えてくれる一冊です。

▶お薦め映画

パク・グァンヒョン監督(2005)

『トンマッコルへようこそ』

朝鮮戦争(1950~1953年)時のある山奥の村トンマッコルを舞台にした、韓国軍・米軍・北朝鮮の人民軍の兵士らと村人たちの交流を描いた映画です。平和について考えさせられます。きっと映画に出てくる村長の一言に心打たれることでしょう。

鹿毛 敏夫

Kage Toshio



日本史と世界史の接点を学ぼう!

いま大学生だったらやりたいこと
16世紀の天正遣欧少年使節のように、
海路(マラッカ→ゴア→喜望峯)でポルトガルへ

専攻

グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学
(専門分野) 歴史学・日本対外関係史



「国際文化」との出会い

大学生のときに日本中世史を専攻して卒論を書いたのですが、当時の古文書史料を解読すると、日本史なのにとくに九州・西日本の各地域がはるか昔から海の彼方の中国や朝鮮、東南アジアなどと結びついていた事実がわかり、興味を覚えました。

趣味



バレーボール、野球、ソフトボールなどの球技。小学生時には友だちと草野球

チームをつくって公園や田んぼで遊び、大人が指導する既成チームと対戦。高校の部活でバレーをはじめ、大学1年時にバレー同好会を結成して大学サークルとして登録。初代キャプテンとして練習計画・対試合の調整、夏休み合宿の企画など、自主的活動を重視したサークル運営をおこないました。鹿毛ゼミでは、年2回のスポーツ大会を開催してゼミ生の親睦を深めるのが恒例になっています。

↑自分の書いた本のなかでの お薦め本

- 月に名前を残した男—江戸の天文学者麻田剛立—
(角川ソフィア文庫、2012年)
- アジアのなかの戦国大名—西国の群雄と経営戦略—
(吉川弘文館、2015年)
- 月のえくぼを見た男 麻田剛立
(くもん出版、2008年)
- ミネルヴァ日本評伝選—大友義鎮—
(ミネルヴァ書房、2021年)
- 戦国大名の海外交易
(勉誠出版、2019年)
- 硫黄と銀の室町・戦国
(思文閣出版、2021年)
- 描かれたザビエルと戦国日本
(勉誠出版、2017年)

演習

ゼミでは、前近代(とくに鎌倉・室町・戦国・江戸時代)の日本と諸外国・諸地域との交流の歴史を、とくにアジア史と世界史の広がりの中で分析・考察し、その歴史的関係性を理解して国際社会に羽ばたく人材を育てます。古文書や古絵図の解読などの難しい活動がありますが、毎年のゼミ旅行ではこれまで、京都や九州、滋賀で現地



↑ゼミ研修旅行
(福岡、櫛田神社の祇園山笠)

研修もおこないました。高校の日本史・世界史とは異なり、「日本史と世界史のつながり」や「国際的な日本史」を追究する本学部特有の歴史演習ゼミです。

▶過去の卒論タイトル

山田長政と戦国大名の国際貿易 / 朝鮮半島と名護屋 / 日本の肉食文化 / 地元越前と紫式部 / 家紋の多様性と自家の根源を知る / 軍歌で学ぶ戦争 / 豊臣秀吉が見た尾張と東海武士の動き

鹿毛流学びの解説!!

↓鹿毛ゼミ1期生卒業式



授業

「日本対外関係史」

たとえば、「フランスコ・ザビエルが来航したときに、16世紀の日本人は彼らをどのように受け入れたのか」など、過去の日本人と海外の人びととの歴史的つながりを学ぶことで、互いの文化やルーツを尊重し、グローバルな知識と教養を身に付けられる授業を提供しています。また、日本独自の古文書の解読方法なども学べます。みずからの歴史や文化の特質を認識した上で世界の人びととコミュニケーションすることで、学生のみなさんが社会に出て活躍する際には、より円滑な人間関係が築けるでしょう。

▶お薦め本

鹿毛敏夫編(2021)
『交錯する宗教と民族:
交流と衝突の比較史』
勉誠出版



本学部の教員7名と東大・東京外大・武蔵大・國學院大・皇學館大の教員5名で研究グループを発足させて、アジアとヨーロッパでの民族の越境と交流、政治と宗教の関係、人間の「国家」意識の具体的深層に迫る本を編集しました。歴史学・文学・社会学・文化人類学・言語学・地域学・宗教学の多分野から「宗教と民族」の共存のあり方を問い直す内容で、本学部で学ぶ学生に最適な本です。

金城 美幸

Kinjo Miyuki



当たり前をうたがってみる

いま大学生だったらやりたいこと
たくさん旅して、たくさん言語を身につける。

エルサレム旧市街の
スーク(市場)は大混雑↓



↑3つの宗教の聖地があるエルサレム旧市街

専攻 **グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学**
(専門分野) **中東・パレスチナ研究、植民地主義研究**

「国際文化」との出会い

母は日本・中国のダブル・ルーツ、父は在日コリアンなので東アジア文化が交じり合う家庭で育ちました。祖母たちが作る中華料理、コリアン料理は思い出の味。日本の植民地下で祖父母たちはなぜ故郷を離れたのかを知りたくて、大学で勉強を始めたときに、パレスチナ難民作家が書いた小説に出会う。祖父母の経験とパレスチナ難民の経験が良く似ていることに衝撃を受け、東アジアとパレスチナの共通の歴史を掘り下げること。大学院生時代に初めて



↑23歳の時に初めてパレスチナへ

でパレスチナへ。以来、現地調査でパレスチナ難民にたくさん学びながら研究を続けています。

趣味

野球観戦。子どもたちが野球チームに入っているので応援に行きます。たまに自主練に付き合っ、キャッチボール、バッティング、守備練習をしたり(下手ですが)。体力がなくてすぐにバテるのが悩み。

↓生まれてからいままでの自分年表

- 小学校: スポーツ好きで活発な6年間。
- 中学校: 水泳に打ち込むも記録が伸びず悩む。
- 高校: 国際協力に興味を持つ。
- 大学: 自分探しに没頭。失敗に学ぶ日々。
- 大学院: 初パレスチナ渡航。
- 研究者: パレスチナに長期滞在。
- 帰国後: 年に1度は調査に行くのが目標。

座右の銘 **必ずどこかに道はある**

研究

パレスチナ問題は「宗教対立」や「民族対立」だと言われることが多いですが、宗教や民族が違えば人はおのずと対立するのでしょうか?それは違います。中東の人々は、長らく多宗教・多文化・多言語のなかで「共存」してきました。しかし、ヨーロッパによる植民地化で中東が多くの国に分割されると、宗教や文化の違いが排除と結びつくようになりました。特にパレスチナでは、先住民の民族自決権を否定して難民を生み出す状況が今も続きます。私たちが当たり前と思うヨーロッパ中心の価値観をとらえ直しながら、パレスチナ研究をしています。



パレスチナ難民キャンプの→
幼稚園

- ▶ いままで食べたもつとも不思議な料理
アラブの激甘スイーツのクナーファ
- ▶ いままでカルチャーショックを受けた経験
パレスチナ料理レシピの分量は全てキロ単位
- ▶ 海外の友人紹介
アラビア語シリア方言を教えてくれるB先生
- ▶ ぜひみてもらいたい世界遺産
エルサレム旧市街
- ▶ お勧め映画
アブダッラー・アル=ハティーブ監督(2021)
『リトル・パレスチナ』

内戦下シリアのパレスチナ難民キャンプのヤルムークが舞台。1948年にパレスチナから追放された難民が、内戦下で政府軍に難民キャンプを攻撃され、シリアでもまた家を追われ、包囲下で死がせまるなか、ヤルムーク生まれの監督が歴史や故郷、尊厳とは何かを問う。

金城流学びの 解説!!

破壊されたパレスチナ人村
↓春はアーモンドの花が咲く



現地の友人家族
水たばこをいただく↓



←インタビューに応じてくれた
大学生さん

▶ お勧め本

岡真理(2023)

『ガザとは何か〜パレスチナを知るための緊急講義』 大和書房

2023年10月にイスラエルがパレスチナのガザ地区でジェノサイドを開始した直後に行われた、アラブ文学者岡真理さんの緊急講義の記録。なぜパレスチナ人への暴力が忘れられてきたのかなど、ヨーロッパ中心の歴史観の問題を突きつけます。

工藤 泰三

Kudo Taizo



英語は異文化理解・世界平和への扉

いま大学生だったらやりたいこと
ちゃんと英語の授業を受けること……(恥)

ベースばかり弾いていた高校生時代(1987年)



大学院はアメリカ合衆国でした(1995年)↓



↑ 栄のモンゴル料理屋でモンゴル人になりきる(2017年)

専攻 **グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学**
(専門分野) 英語教育・国際教育

「国際文化」との出会い

学生時代まで住んでいた東京の蒲田という街は、大げさに言うと多文化のつぼのような街で、中国や韓国・朝鮮、フィリピンなどにルーツをもつ人が多く生活しています。父と通った餃子屋は中国残留孤児のおじさんがやっていたし、家族でよく行った焼肉屋は在日コリアンのおばさん(=友だちのお母さん)がやっていました。

専門は英語教育ですが、英米の文化にはあまり新鮮味は感じませんでした。むしろ教師になって以降訪れる機会に恵まれた台湾やインドネシア、タイなどの文化に触れるたびに、自分のもっている世界の狭さを思い知らされます。

趣味

列車で旅をすること。いわゆる「乗り鉄」。何時間もただボーっとしながら列車に乗っているだけで幸せ。ディーゼルカーを「電車」と呼ぶ人にはちょっとムツとする。萌えポイントは「線路の終端部」。



↑ 線路の端っこ(行き止まり)に萌えます

↓ 生まれてからいままでの自分年表

- ミシン屋兼電気屋の三男として生まれる
- 小学校: 鉄道(とくに列車に乗ること)にハマる
- 中学校: 吹奏楽(チューバ演奏)にハマる
- 高校: バンド(エレキベース)にハマる
- 大学: 飲酒・喫煙・塾講師バイトにハマる
- 大学院: ここでようやく英語教授法研究にハマる
- 教員: 他教科と融合した英語教育にハマる

座右の銘

すべての学びは世界平和のために

演習

工藤ゼミでは「持続可能な社会づくりのためにわたしたちができること」をテーマに、社会が抱えるさまざまな課題を自分事として主体的に捉え、課題の解決・改善にむけてどのようにふるまうべきかを検討しています。具体的な活動内容としては、みんなで書籍や論文を読んだり、時事問題についてディスカッションしたり、共同で研究活動をしたりしています。また、例年9月には3・4年合同で研究発表会を兼ねたゼミ合宿をしています。



↑ 9月のゼミ合宿・旅行(写真は2019年)



授業

「英語で学ぶSDGs」「英語で学ぶ環境・エネルギー問題」

わたしの授業は「英語の授業でありながら国内外の諸問題について学ぶ授業」です。「英語演習E」では貧困や飢餓、責任ある消費と生産などについて、「英語演習F」では気候変動や海洋プラスチック、再生可能エネルギーなどについて、グループワークを中心にして英語の資料を読んだり、アクションプランを作成したり、プレゼンテーションをおこなったりしています。よりよい社会づくりのために、一緒に学びましょう!



↑ 英語演習の授業でポスターセッション

▶ お薦め本
竹内理(2007)
『「達人」の英語学習法』
草思社



「英語は小さいうちからはじめないと身につかない」「学校の授業をいくらがんばって受けても英語は上手にならない」……なんて思い込んでいる人、ご一読を。英語教育研究の第一人者が、これまでさまざまな研究者によっておこなわれてきた多くの研究にもとづき、根拠のない言説を正していきます。

工藤流学びの解説!!



↑ ゼミ生の使い捨てプラ削減案が名古屋市から受賞(2020年)

← ゼミ合宿で発表会(写真は2019年)

近藤 泉

Kondo Izumi

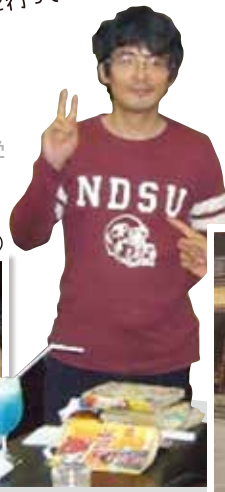


中国の漫画、けっこうはまります!

いま大学生だったらやりたいこと
また留学に行ってみたい!

専攻

グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学
(専門分野) 中国文学・中国文化・日中比較



↓台北で(学生時代)



中国湖南省の岳陽楼で(学生時代)→



「国際文化」との出会い

大学・大学院時代の中国での語学研修・留学などで貴重な経験をしましたが、国内では、東大で中国文学を学んでいたおり、中国から来日されていた招聘教員の先生方の家によく行き、日本語をつかえない先生のお世話などもしつつ、いろいろ質問し、中国語や中国古典の文の現代語の意味、論文に関わる不明な点を教えていただいたり、食事をいただいたりしていました。楽しくかつ語学や専門分野についても得たものが多い充実した時間でしたが、日中の習慣や考え方の違いを生活のなかで身近に知るよい機会でもありました。



↑北京大学の留学生寮で(学生時代)

趣味

韓国のドラマや中国の映画・ドラマを中国語でよく観ています。韓国ドラマは専門とほとんど関係ありませんが、はまっています。中国の映画・ドラマも、おもしろいと思うものが多くあり、ついつい観てしまいます。

↓自分がいま名学大の学生ならば ぜひやりたいと思うこと

- 制度を利用して留学をする(長期留学する)
- i-Loungeのランゲージ・テーブルで英会話
- i-Loungeの会話サロンで学びたい外国語の会話練習
- I-Loungeでネイティブ講師等から英語個別指導
- 留学生と一緒にフィールド・トリップに参加
- 他のイベントや別科との合同授業で留学生と親しくなる
- 海外スタディツアーに参加

座右の銘

失敗はあって当たり前!

演習

日中比較が主要テーマ。人生において大事なこと、友人関係、謝罪や感謝の仕方、恋愛についての意識、働き方……といったさまざまなテーマに関し、たとえば、日中同時アンケート調査における日本のデータをもとに中国についてグループで推測し、その後、中国の実際の結果を受け取り、グループで相談しつつ日中の違いを分析し、発表するなど(これは授業方式の一例です)、卒業論文作成以外については、基本的にグループで作業します。

近藤流学びの 解説!!

↓中国での提携校の一つ「南開大学」



手塚プロの子会社・北京写実で(2010年ごろ)↓



天津のレストランで→(10年ほど前)



▶過去の卒論タイトル

日本ドラマと中国ドラマから見る両国の特徴 / 日中の美容事情比較 / 道徳教科書から見る日中の相違点 / 中国「蠶絲」と日本のワーキングプア / 日本人と韓国人のスキンシップの許容度 / 日本と中国の性教育の比較 / LGBTにおける日本と中国の世論の考え方の比較

授業

「日本のポップカルチャーとアジア」

という科目を担当しています。中国で流行っている日本や中国の大衆文化は、研究のメインテーマではないものの、継続して調査を続けているものでもあります。

授業では主に日本の大衆文化と中国などとの関係をとりあげます(アニメ・漫画にもっとも時間をつかいますが、小説も扱います)。大衆文化という切り口で、文化、産業、相手国への意識などの面から、日本と中国などとの関係を考えます。授業では中国の数百冊の漫画などにもふれます。

▶お薦め本

梶谷懐・高口康太(2025)
『ピークアウトする中国
「殺到する経済」と「合理的バブル」の限界』
文春新書

経済学の視点と現地ルポに基づき、近年の中国経済の状況を述べた本。単なる悲観論や楽観論ではなく、「不動産不況による需要の落ち込み」と「EVなど新興産業の快進撃・生産能力過剰」という二つの異なる現象を、「同じ根」から説明しています。

佐伯 奈津子 Saeki Natsuko



ルールからはずれるのを恐れず
現場に飛び込もう

いま大学生だったらやりたいこと
滞在地も期間も気の向くまま、
飛行機をつかわず世界一周したい

専攻 グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学
(専門分野) 平和研究・インドネシア地域研究

「国際文化」との出会い

大学2年の夏休み、ロンドンに語学留学しました。わたしのルームメイトはインドネシア人で、距離のとりかたの違いにとまどいましたが、ケンカを経て仲良しになりました。春休みには彼女を訪ねてインドネシアへ。大金持ちの彼女の運転手つきの車からみた首都ジャカルタの高層ビル街と、自分の足で街を歩いてはじめてみる人びとの暮らし。なぜ景色が違うのかを知りたくて、毎年インドネシアに足を運ぶようになりました。英語を学びにいったのに、行き着いた先はインドネシア。人生どこでなにに出会うかわかりません。

趣味

旅行。中心より周辺が好きで、観光客のいない地域に滞在したり、地元の人しかつかわなようなルートを見つけ、国境を越えたりするのが好き。



▶カルチャーショックを受けた経験
ミイラのいる村で自称400歳の老人に
会った



↑ベチャ(輪タク)を
こぐ男性の調査が
自分の原点



先住民族から学校で教わらない知恵や価値を学ぶ↑

↓行ったことのある**国境地帯**
(世界地図で探してみてね)

- 稚内: 船でサハリンに渡ってみたい
- 都羅山駅: 北朝鮮と韓国を往来できる日がくるかな
- タラカン→タワウ: アブラヤシ農園労働者とともに
- バシラン島: 対テロ作戦展開中だがまた行きたい
- ドゥマイ→マラッカ: 「日本の生命線」の海峡
- ベトン→パンカラン・フル: 歩いて国境越え
- ランペドゥーザ島: 北アフリカ移民のルート

座右の銘

あなたがこの世で見たいと願う変化
に、あなた自身がなりなさい

(ガンディー)

演習

グローバル化が急速に進んだ現在、開発、環境、人権、貧困、差別などの問題は、一国内にとどまらない地球的な課題になっています。演習では、これらの課題について学び、自身が世界と切り離せない存在であることを理解し、複眼的にものごとをとらえられるようになることをめざします。海外へのゼミ旅行のほか、海外にルーツのある子どもたちの日本語・学習支援や、インドネシア・アチエの女性支援など、ゼミ全体の活動も盛りだくさんです。



アチエの女性たちと民芸品をつくる↑



←学生と
フェアトレードの
カカオ豆生産現場へ

インドネシア→
アチエにある
協定校の
学生たちと



▶お薦め映画

マイケル・ムーア監督(2015)
『マイケル・ムーアの世界侵略のスヌメ』
8週間の有給休暇、フルコースの給食、宿題なし、大学の授業料が無料、週の労働時間は36時間……。各国のユニークな政策が紹介されています。希望のある将来像を描くことができず、生きにくさや閉塞感を覚えるとき、元気を与えられるかもしれません。

佐伯流学びの 解説!!

↓学生と日本語教室を開催



▶過去の卒論タイトル

公的資金援助が及ぼした悪影響: 立ち退き問題から開発援助のあるべき姿について考える / 技能実習制度が引き起こす問題: インドネシア人側からの視点 / 日本で起きているヘイトスピーチの実態: 現状と課題 / チョコレートの裏側: パパア州におけるカカオキタの活動

授業

「国際平和学」

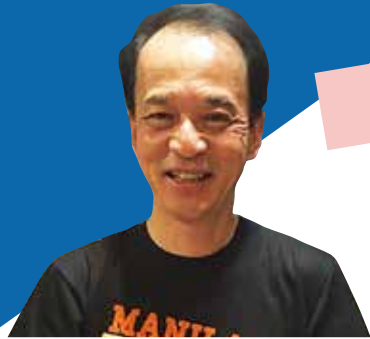
さまざまな暴力をなくし、公正な社会や平等な権利の実現をめざすのが平和学です。暴力をなくすために、まず歴史的な背景や政治・経済・社会・文化的な構造を理解する必要があります。学びのなかには、知りたくなかったつらい現実もあるかもしれませんが、暴力を引き起こす仕組みを知ることは、その暴力をなくす道筋につながるはず。そして、マイノリティや弱者のおかれている状況に「想像力」と「共感力」を働かせられるようになれば、世界はいまより平和になるかもしれません。わたしたちもまた平和をつくりだす主体です。



↑難民を受け入れたイタリア南部のリアーチェ

佐竹 眞明

Satake Masaaki



歩く、みる、聞く、考える

いま大学生だったらやりたいこと

いろいろな国、地域に行って、
現地の人と語り合いたい

専攻 **グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学**
(専門分野) フィリピン研究(結婚・開発)

「国際文化」との出会い

大学院修士1年のとき、はじめてひとりで3週間、旅をしたのがフィリピン。ショックが大きく、その後、リピーターに。日本の経済進出を勉強したが、博士課程在学中には伝統的な市場や地場産業に興味をもち、調べる。1989年、香川の四国学院大学に就職。翌年、フィリピン人と結婚。結婚してもフィリピンへの関心は薄れずに、通い続け、1998年に地場産業研究を一冊にまとめる。一方、日本にいるフィリピン人に興味をもち、2005年名古屋学院大学の教員になってから、国際結婚について本をまとめる。



↑国際結婚の調査(2016年)

趣味

朝のラジオ体操。ユーチューブ動画をつかいます。パンづくり。ライ麦、全粒粉パンが好きです。愛犬ココ(チワワとトイー・プードルとのミックス)との散歩。高校生のとき、はじめたギターを少々。

セブ島へ(2013年)↓



↑フィリピンのココヤシジュース(2015年)

↓小学生からいままでの自分年表

- 小学校: 人気のクラス委員長
- 中学校: 野球部
- 高校: 映画と小説に熱中
- 大学: 英会話サークル・勉強会
- 旅: フィリピンの貧乏旅
- 大学院: フィリピンに留学
- 研究者: 比較的早く専任、2大学をまたぐ



↑高校時代

座右の銘 **今日も生きている。ありがとう**

演習

3年次でゼミ論、4年次で卒論を書きます。ゼミ論とは卒論の基礎となる論文で、量も卒論の半分です。テーマは自分の近辺で起きていること、もしくは現在、自分が最も関心を持っていることで、何でも構いません。ゼミで発表し、みんなのコメントを受けます。そして、教員の指導を受けます。文献の探し方は指導します。面白いテーマとなるように、がんばってください。

※2027年度末退職予定(演習を履修できるのは2024年度入学生まで)

▶過去の卒論タイトル

多様性を認め合う／若者を取り巻く環境を未婚化・晩婚化／誹謗中傷のない社会にするためには／ハーフに生まれて／SDGs 今後の日本の課題

研究

フィリピンのマルコス政権に対して、日本政府がどのような外交関係を持つべきか、考えています。領土問題に関連して中国敵対論ではなく、お隣の大国・中国とどうやって仲良くやっていたらいいか、関心があります。大国として、敬意を払いつつ、崇拜ではなく、技術、経済など「小国」への敬意をもっていただけるように、善隣外交の輪をつくってほしいと願っています。なお、2024年はフィリピンへのスタディツアー(国際文化協力実習)を担当します。



フィリピン・スタディツアー↑で植林(2016年)

▶海外の友人紹介

フィリピンの映画評論家、作家、教員

▶いままでに食べたもっとも不思議な料理

フィリピンで食べた犬のシチュー

佐竹流学びの解説!!

←マニラが
なんといっても一番



↑趣味のパン作り

▶カルチャーショックを受けた経験

フィリピンへの初訪問。

▶お薦め本

岡田薫(2019)

『半径50メートルの世界: フィリピン バランガイ・ストーリー』

論創社
バランガイというのはフィリピンの最小行政単位。コミュニティのことだ。著者は「まにら新聞」記者。この国の日常世界がよーわかる。

▶お薦め映画

プリランテ・メンドーサ監督(2016)

『ローサは密告された』

マニラ市内で小さな雑貨店を営むローサ。家計のため、少量の麻薬を扱っていたが、密告されて、逮捕される。高額な保釈金。汚職にまみれた警察。そのなかで、どうやって保釈金をあつめるか。マニラの実態が精密に描かれている。

柴崎 全弘

Shibasaki Masahiro



素朴な疑問を学問につなげる

いま大学生だったらやりたいこと
自転車で古本屋巡りをよくしていたので、
結局それかな……

専攻 **グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学**
(専門分野) 比較行動学

「国際文化」との出会い

大学院生のとき、国際比較心理学会に出席するためにニュージーランドのクライストチャーチに行きました。学会での口頭発表は発表+質疑応答というスタイルでおこなわれますが、日本では発表が長引いて質疑応答の時間がなくなった場合は時間を延長して質問を受け付けるのが一般的なのに対し、海外では発表が長引くと質疑応答の時間はとってもらえなくなります。日本人は時間に厳格だとよくいわれますが、学会でのセッションが時間どおりに終わることはあまりなく、逆に海外のほうが何が何でも時間どおりに終わらせようとするのです。不思議ですね。



↑クライストチャーチの街並み

趣味

趣味は音楽鑑賞で、とくに1980年代の洋楽が好きです。小学生のころ、マイケル・ジャクソンの『スリラー』と映画『ゴーストバスターズ』のサントラを繰り返し聴いていたせいか、一番じっくりするのがこの年代の洋楽なのです。



ニュージーランドにて→
(2006年)



↑愛車の三菱デボネア

↓自分がこれまでにハマったものベスト7

- プロレス: いかかわしさこそプロレスの魅力
- ジャズ: テナーサックスの音色にシビれます
- 刑事ドラマ: 犯罪行為に人間の本質を垣間見る
- 旧車: 1976年式の三菱デボネアが愛車です
- 釣り: 大学生のころはよく夜釣りをしていました
- TVゲーム: やるのはレトロゲームのみです
- 昆虫採集: 一番好きなのはミヤマクワガタ

座右の銘

温故知新

(何事も新しいものより古いものに興味を惹かれるので)

演習

柴崎ゼミではみなさんが普段の生活を送るなかでふと感じた疑問を拾い出し、それについて深く考察していくというスタイルをとっています。たとえば「長く愛されるアニメの共通点とは何か?」「好き嫌いは外部から操作できるのか?」「動物にも恥ずかしいという感情はあるのか?」「臨死体験は世界共通なのか?」「どうしてメンヘラになる人がいるのか?」といった疑問について考えたりしています。学問のネタは日常に転がっているのです。



↑ゼミ生との飲み会

▶過去の卒論タイトル

大学生へのアンケート調査からみたMBTIをめぐる諸問題/人間と動物の共生について/ジェンダー的観点から見た日本の特撮ヒーロー/日本と韓国の美容意識の違いについて/ジャニーズが日本にもたらした文化的影響/ディズニーが人々を魅了する要因について

柴崎流学びの解説!!

↓卒業式でゼミ生と



瀬戸でのフィールドワーク↓



▶お薦め本

井上光晴(1999)
『眼の皮膚・遊園地にて』
講談社文芸文庫

人に薦めできるような本ではないのですが、個人的に好きな小説です。平凡な家族の平凡な一日を描いているだけに、なぜこうも不気味なのか。そして自分はなぜこれを何度も読みなおしてしまうのか……。日常に不意に忍び寄ってくる不安や虚無感を描いた小説といえます。

授業

「比較行動学」

この授業ではヒトの社会とヒト以外の動物の社会とを比較することで、ヒトと他の動物との共通点やヒトの独自性とは何かについて考察します。現在の日本は一夫一妻制ですが、大昔の人間はどうだったのでしょうか? 動物の世界ではどうでしょうか? ヒトは恋人や配偶者を選ぶ際に相手の顔を重視しますが、なぜそのような性質が備わったのでしょうか? 他の動物はどのような点に注目するのでしょうか? 「ずるい」とか「もったいない」といった感情は動物にもあるのでしょうか? このような疑問について考える授業です。

末松 大貴

Suematsu Daiki



知識や経験は、
武器となり優しさとなる

いま大学生だったらやりたいこと
本読みながらのんびり旅行 / 美術館巡り / 勉強 (これからも!)

専攻 **グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学**
(専門分野) 日本語教育・実践研究・質的研究

↓冬のモンゴルでの乗馬体験



↑アメリカの大学での文化イベントにて

「国際文化」との出会い

幼稚園の時に小さな英会話教室に行ったこと、小・中とサッカーが好きで色々な国に興味を持ったこと、高校の修学旅行でオーストラリアに行ったこと、大学時代に留学生のクラス、大学院生の教育実習(台湾)、中国での短期交流に参加したこと、大学院の時にモンゴル、アメリカ、中国で日本語教育に関わったこと、留学生の日本語クラスを担当してきたこと…直接的な「出会い」はこのような感じですが、みなさんもわたし自身も、自分では気づいていない「国際文化との出会い」があるのではないのでしょうか。



↑中国の大学にて (朝6時45分頃の体操)



↑中国の大学での洗濯物の干し方(?)

趣味

アニメ(「ハチミツとクローバー」が好き) / 読書(江國香織さん、恩田陸さん、千早茜さんが好き) / 将棋(観る将) / 美術館・音楽(中学生の時からspitzのファン) / ゲーム実況を見る

座右の銘 「嫌い」より「好き」を探すと楽しいよ

研究

研究として関心があるのは、日本語教育における「学習の振り返り」です。皆さんも、今までの学校生活で、「今日の振り返りを書こう」「この学期を振り返って」のようなシート、書いた(書かされた?)ことがあるのではないのでしょうか。私は、日本語が母語でない方に日本語を教えるクラスで、この「学習の振り返り」をどのようにすればより意義があるか? そもそも「学習の振り返り」の意義って何? という点に関心があります。その他、日本語教師とSNSの関わり、日本語教師にとっての大学院、などにも興味があります。

霧のシカゴ (冬で寒かった…)



末松流学びの 解説!!

↓台湾での教育実習での観光



↓アメリカの大学の学生と



←モンゴルの大学の学生と



授業

講義では、「日本語教育(日本語が母語でない方に対して日本語を教える)」という観点から日本語を理解すること、そして、「日本語を外国語として理解する観点を養うこと」を目的とします。具体的には、日本語の音声・文字表記・語彙、文法・パリエーションなどについて基礎的な知識を学びます。また、講義では、私自身も含めて、自分の考えを言語化すること、そして、他の学生と意見を交換することを大切にしてほしいです。これらを通して、「国際文化」の

1つとしての日本語、日本文化を理解することを、一緒に目指しましょう。

※演習は担当しません。



←日本語教育学会in山形



夏のモンゴルでの夕焼け↑

▶お薦め本

①鈴木孝夫(1973)

『ことばと文化』岩波新書

今井むつみ・秋田喜美(2023)

『言語の本質:ことばはどう生まれ、進化したか』中公新書

どちらも新書で読みやすいと思います。

②瀬尾匡輝・瀬尾悠希子編(2023)

『ケースで考える!誰も教えてくれない日本語教育の現場』ココ出版

日本語教育の現場を知ることができます。

鈴木 乙都

Suzuki Oto



小さな疑問を大事にしよう

いま大学生だったらやりたいこと

世界中にある
日本でつくられた文化財を見て回る旅

専攻 **グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学**
(専門分野) 日本近現代史・明治維新史

「国際文化」との出会い

私が「国際文化」を考えたきっかけは、海外で異文化に触れるのではなく、日本のなかにもありました。大学時代、観光地でのガイドボランティアをしていました。日本人観光客ばかりでなく、時には外国人観光客の方を案内しました。その際、例えば日本のお城や畳、天井、襖など、日本特有の歴史や文化を分かりやすく紹介することが難しく、とても勉強になりました。ガイドボランティアの経験から、日本と海外の文化や歴史の違い、あるいは「世界から日本はどう見られているのか」などを考えるようになりました。



大学時代のボランティアサークル仲間↑

趣味

趣味は旅行です。特に各地の博物館で催される様々な展示を見るのが楽しみです。また休日には、地域の民家や博物館で、古文書(昔の人々が書いた手紙や日記など)を整理する活動にも参加しています。



大学のゼミは20人をこえる大人数でした↑

↓子ども時代からいままでの自分年表

- 子ども時代: 静岡県出身、本が大好き。
- 中学校: バレーボールに打ち込む!
- 高校: バレーボールに打ち込む!
- 大学: 愛知県へ。教職&学芸員の免許取得。
- 大学院(修士): あっという間の2年間。
- 大学院(博士): 研究と仕事で多忙な毎日。
- これから: 名学大で過ごす日々ドキドキ!

座右の銘

禍福は糾える縄の如し

演習

日本文化史を担当しています。特定のテーマを設けず、広く日本文化に関わることを考えていきます。卒業論文では、自分の好きなこと・興味のあることをとことん追究してもらいます。テーマを決め、文献や資料(史料)を見つけ執筆する力を身につけていきます。またゼミ旅行(国内)を予定しています。行き先はゼミの皆で決定します。親睦を深め、実際に目で見て経験することで、自身のテーマを深める機会とすることが目的です。



↑桜が満開の函館・五稜郭タワーから

▶お薦め本

- ①浅田次郎(2000)
『壬生義士伝』文藝春秋
一番好きな作品です。新選組の隊士を題材にした歴史小説。映画・漫画もオススメです。
- ②町田明広編(2023)
『幕末維新史への招待』山川出版社
幕末維新史が好きな方や、勉強したい人向け。幕末維新史について、最新の研究から新知見を得ることが出来ます。

鈴木乙都流学びの
解説!!

卒業式での一枚↓



研究

日本近現代史、特に幕末から明治維新时期が専門です。現在は、江戸幕府の役職のひとつである老中について、政治や制度の面から研究しています。昔に比べると、最近の映画やドラマでは、ペリー来航以降の幕府が取り上げられるようになりました。そのおかげで、明治維新の敗者というイメージは変わりつつあるように思います。国内外で様々な問題を抱えた“激動の時代”に、老中や江戸幕府が、どのようにして問題に立ち向かっていったのかを明らかにしていくことは、現在にも通じるとも大切なことだと考えています。

鈴木 啓司

Suzuki Keiji



インドア勉学の勧め

国際文化学部を目指すみなさんは、将来は外国に留学して異文化に直接触れ見聞を広げようと意気軒昂な人が多いかと思います。それはもちろん結構なことです。大いにその実現に向けて励んでください。ですが、ここでは少し目先を変えて、インドアの勉学の勧めを展開したいと思います。というのも、わたしが哲学専攻で、ふだんほとんど移動せず、座してものを考えることが大好きだからです。哲学者にも行動的な人はたくさんいますが、哲学の基本はやはり考えることです。何十カ国と見て歩いても、その体験をもとに考えなくては、あまり意味があるとは思えません。単なる放浪自慢にはなってほしくないです。それはおいても、昨今の世界的なコロナ禍で、海外渡航もままならないご時世です。日本にいてさえ、人との交わりも制限されます。こういうとき、一人でじっくり考え時間を過ごせる人間は強いですよ。ほとんど支障を感じません。というわけで、国際文化学部のなかにあってはかなり毛色が変わった自己紹介になりますが、これもわが学部の多様性の一環として受け取ってください。



イマヌエル・カント

具体例にそった話が分かりやすいでしょう。“引きこもり”で偉大な業績を上げた人数名を紹介します。まずは、ドイツの哲学者カント(1724~1804)です。彼は、生まれ故郷の町ケーニヒスベルグ(いまのロシア領カリーニングラード。地図を見て確認してもらおうといいのですが、ポーランドとリトアニアにはさまれた、いわゆる飛び地です)を生涯出ることなく、哲学史上のコペルニクスの転回(コペルニクスがそれまでの天動説に代わり地動説を唱えたように、ものの見方を180度転換する画期的なおこないのこと)と呼ばれる思想を築きあげました。彼はまた、『永遠平和のために』という小冊子で、今日の国連のような組織も構想しています。一つの町で一生涯を終えたにしては、実に氣宇壮大ではありませんか。

このように、世界を飛び回らなくとも、偉大な哲学者になれます。



カリーニングラードの街

次は、英国の数学者ワイルズ(1953~)です。彼は1995年に350年以上も解決を拒んできた難問フェルマー予想の証明に成功しました。そこに至る道は、7年間、必要最低限の時間以外は電話も引いていない屋根裏部屋に閉じこもり、ひたすら問題解決に没頭するというものでした。この挑戦を周囲には秘密にしていたというのですから、まったく孤独な作業だったわけです(最終段階では協力者もいました)。そして公表してからさらに2年の紆余曲折を経て、10歳のときより夢みていた難問解決をついに成し遂げたのです。

アンドリュー・ワイルズ
(2005, copyright
C. J. Mozzochi,
Princeton N.J.)

このように、世界を飛び回らなくとも、偉大な数学者になれます。

最後は、達磨大師(6世紀、インド出身)です。日本では手足のないあのずんぐりした人形で有名ですが、仏教の一宗派、禅宗の開祖である実在の人物です。彼は「面壁九年」といって、中国の少林寺に入り壁に対して座すこと9年、悟りを開いたといわれています(伝説ですが)。あの人形の姿は、9年間も座禅を組んでいたため手足が萎えてなくなったという意味です。

このように、世界を飛び回らなくとも、偉大な宗教家になれます。

彼らの共通点は、思考を深めた末、空間移動とは違う次元の彼方を見出したことでしょう。ことさら動かずとも、自分を高める道はいくらでもあるということです。

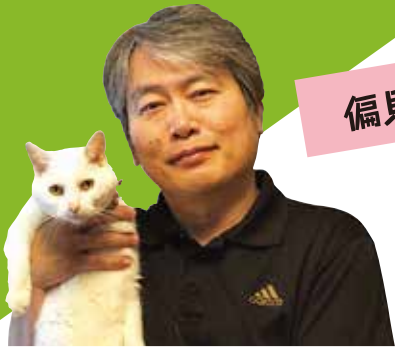
鈴木流学びの
解説!!

雪舟等楊「慧可断臂図」(愛知県常滑市青年寺蔵)

最後に、哲学的に考えることの効用を述べておきます。わたしの異文化体験など微々たるものですが、ものごとの本質を考える哲学の視点からいうと、人間、根の部分は変わりません。わたしの場合、ウマが合う合わないは抽象的な話ができるか否かに拠りますが、それについては、人種、文化で違いはまったく感じませんでしたね。要は、どこに行こうと、多くの普通と称される人たちと、良くも悪くも少数の変わり者がいる、という事実には尽きると思います。深く考えれば表面的な差異など気にならなくなります。その意味で哲学は、実に平等主義的な学問ですよ。

※2028年度末退職予定
(演習を履修できるのは2025年度入学生まで)

中田 昭一 Nakata Shoichi



偏見を捨てて、広い視野をもとう

いま大学生だったらやりたいこと
 お金があればですが、大学を1年間休学して
 放浪の旅をしたいですね

専攻 **グローバル文化** / 国際協力・共生 / 国際日本学
 (専門分野) 中国近代史

「国際文化」との出会い

小学生のころ、毛沢東が亡くなったことを伝えるテレビニュースを観たときに、「中国の神さまが亡くなったんだよ」と父親が言ったのを聞いて、「中国には現人神がいるんだ」と不思議に思いました。それが中国に関心をもった最初のきっかけだったかもしれませんが。学生時代にバックパックを背負って中国を貧乏旅行しながら、現地の人たちの温かさや中国文化の奥深さにふれるうちに、中国のおもしろさに惹きつけられていきました。ちなみに、当時は10万円ぐらいいれば1カ月ぐらい中国旅行が可能でした。しんどい旅だったけれど、おもしろかったですよ。

趣味

映画・音楽鑑賞、読書。かつては冬になるとスキーに出かけていましたが、最近はおたぴれてしまって……。冬山には行きますが、もっぱら温泉につかるのが目的になってしまいました。

▶ いままで食べたもつとも不思議な料理
 火鍋で食べるブタの脳みそ。美味



中国留学時代:
 南京大学の寮にて→



← 深圳駅・線路を歩くわたし
 (1987年)

↓ お薦めの本・漫画 ※出版年は初版のもの

- 井上ひさし『不忠臣蔵』(集英社文庫、1985年)
- 鎌田慧『ぼくが世の中に学んだこと』(岩波現代文庫、1992年)
- 立花隆『青春漂流』(講談社文庫、1985年)
- 陳舜臣『日本人と中国人：“同文同種”と思ひこむ危険』(祥伝社新書、1971年)
- 橋本治『性のタブーのない日本』(集英社新書、2015年)
- 安彦良和『虹色のトロツキー』(中公文庫全8巻)
- 矢部宏治『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』(ちくま文庫、2011年)

座右の銘 座右の銘をもったことがありません

演習

中国についてのあらゆるテーマを扱っています。隣国でありながら、「経済発展が著しい国」というイメージはあるものの、中国の実像はあまり知られていません。そこで中国の社会・経済・政治・文化などを知ることができる映像資料をつかって、中国の多様性について理解を深めるようにしています。演習のような少人数の授業は、みなで議論する時間をたくさん設定することが大切だと思っています。議論をできる力が将来必ず役に立ちます。

▶ 過去の卒論タイトル

訪日中国人観光客の動向と現状 / 中華圏のポピュラー音楽 / 東京ディズニーランドと上海ディズニーランド / 中医学と日本 / 中国の自動車産業における環境対策について / 中国の最新物流事情 / 日中間の歴史認識が生んだ溝 / 尖閣諸島問題をめぐる日中米の争い



↑ 魯迅で有名な紹興の古い町並み

▶ お薦め映画

アン・リー(李安)監督(1994)
 『飲食男女(恋人たちの食卓)』

舞台は民主化が急激に進んだ1990年代の台湾。有名シェフの父親と娘3人の家族が織りなす人間ドラマ。すきっ腹のときには観ないほうがよいですよ。登場人物の人生の転機に、おいしそうな中華料理がスパイスのようにスクリーンに挿入されます。

中田流学びの
解説!!



↑ ゼミ懇親会の様子

授業

「日中関係論」

日中関係はかなり長い間良好ではない状況にあります。悲しい現実です。でも、中国では日本に好印象を持っている人が半数に近いことをご存じでしょうか？中国には東野圭吾のファンがたくさんいます。翻って、中国のノーベル賞作家の莫言を知っている日本人はどれほどいるでしょう。多くの日本人は、根拠に乏しいイメージだけで中国や中国人を判断している傾向があります。わたしは授業でできるだけ具体的なデータをつかって中国事情を紹介するようにしています。具体的なデータを示すだけで学生の中国に対する印象が変わります。

樋口 勇夫

Higuchi Isao



大学は、学びたいことが
思いきり学べる場所

いま大学生だったらやりたいこと
音声学研究が盛んなアメリカイギリスに留学し、
音響音声学を学びたい

専攻 **グローバル文化** / 国際協力・共生 / 国際日本学
(専門分野) 中国語学・音声学

「中国語」との出会い

高校生のときは真剣に音大を目指していたが、音大の教授に「君、才能ないね」と言われ、音楽を専門にするのは断念。名古屋の予備校で一浪するなか、尾張・三河・三重県の方言の違いのおもしろさに目覚め、大学では日本語方言学をやろうと決意。ところが、大学入学後、第二外国語で中国語をはじめたら、「こっちの方がおもしろい!」と中国語にハマる。デーモン閣下とは選択の中国語で、映画監督の是枝裕和とは必修の中国語で、それぞれクラスメート。大学院で音声学にもハマった結果、いまは中国語の音声方面の研究をすることに。

趣味

北京留学時代、サザンオールスターズ「真夏の果実」の北京語カバーや榎原敬之「もう恋なんてしない」の広東語カバーに出会って、J-POPの中国語カバー曲にハマり、C-POPが趣味に。授業でも流しています。



↓高校生からいままでの自分年表

- 高校: 音大を真剣に目指す
- 大学(早大): 中国語にハマる
- 大学院(慶大): 音声学にハマる
- 留学(北京大): 中国の農村で方言調査
- 研究者: ハワイ大で音声学研修
- 著書: 『臨汾屯里方言研究』
- 学んだ言語: 英、中、仏、韓、ベトナム、広東、台湾、上海

座右の銘

さいおうがうま
塞翁が馬

(人生は、良いことと悪いことが交互にやってくる)

↓樋口ゼミ



演習

「ことばと国際文化」

- 「鬼滅の刃」上弦の鬼の名、なぜ全て濁音が含まれている?
 - 英・中・韓・仏・スペイン語のLやR、日本語のラ行音とどう違う?
 - アに聞こえる英語の6母音([æ a ʌ ə ə ə]), どう違う?
 - 中国語の-in/-ing、なぜ聞き分けにくい?
 - 韓国語の2つのエ(에/에)、オ(어/오)、ウ(우/우), どう違う? など、気になりませんか?
- ことばに関する身近なことについて、自分が興味あることについてテーマを決めて、プレゼンします。

▶過去の卒論タイトル

台湾の中国語のそり舌音の特徴 / 英語母音の米音・英音と日本語母音 / ヒット商品ネーミングの母音・子音の秘密 / 尾張・三河・三重県方言のアクセントの違い / ディズニー映画からみる女性の立場の変化 / 「いい曲」と感じるコード進行の日中韓比較 / 外国人に人気の日本アニメの特徴



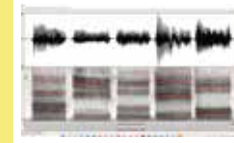
樋口流学びの 解説!!

↓卒論発表会で
ゼミ生が最優秀賞



授業

中国語は入学後ゼロから始める人が大多数です。文法はヨーロッパ語のような形の変化がなく、語順だけなので楽です。漢字の発音を表わすローマ字の読み方から、1人ずつ発音指導するので、GW明け頃には、簡単な中国語文で会話できます。毎回授業後に書いてもらう「授業コメント」に、「〇〇ができるようになって嬉しかった。」「中国語が楽しくなってきた。」など、「嬉しい」「楽しい」という感想が増えると、僕も嬉しく思います。各授業冒頭でやる「言語学クイズ」は、その言語を知らなくても、例を踏まえれば解けるので、「毎週楽しみます!」と好評です。



↑音声学の授業で使う、日本語母音の音声分析



コロナ前の↑
ゼミコンパ

▶お薦め本

川原繁人(2022)
『フリースタイル言語学』 大和書房
著者は、「音声学を中心とした言語学を、みんなに楽しく学んでもらうこと」をモットーに、最近、一般向けに続々と本を出しています。プリキュア・ポケモン・メイド喫茶のメイドの名前の音声特徴や日本語ラップの韻などを題材に、楽しく音声学を学べます。

増田 あゆみ Masuta Ayumi



自分で経験することが知力になる

いま大学生だったらやりたいこと
もっと世界を見てまわって、たくさんの人に会うこと

専攻

グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学
〈専門分野〉 国際政治学・国際関係論



トウルファンにて→
学生時代



↑ウラジオストクにて
大学院時代の国際会議

プロフィール

- 大学: 自分探しの貧乏旅行に夢中になる
- 大学: 学業よりもバイトの日々
- はじめていった外国都市: 開放直後の魅力的な上海
- 大学時代に訪れた地域: アジアなど
- 研究で滞在した街: シドニー、シンガポールなど
- お薦め: センスのいい写真集を眺めること
- 尊敬する人: 母親

座右の銘 さいおうがうま 人生万事塞翁が馬

「国際文化」との出会い

小学校のときから、外国映画を毎晩観ていました。いま思えばそれがはじめての国際文化との出会いであった気がします。神戸が地元でしたので、いわゆる外国文化は生活のなかにあったと思います。大学時代にバックパッカーとしてはじめて歩いた外国＝中国での体験は衝撃的でした。それまで知っていた外国とは違う異文化に遭遇しました。とくに中国の辺境地域のチベット、ウイグル、内モンゴル地域での体験は、その後の人生を決める経験になったと思います。

趣味

映画鑑賞、美術鑑賞、世界のいろんなところに行って人と会うこと、おいしいものを食べること、たまに絵を描くこと、写真を撮ること、たまに運動すること

▶ カルチャーショックを受けた経験

議論で常識と思っていたことがまったく通じなかったこと

▶ ぜひみてもらいたい世界遺産

アンコールワットの遺跡群、万里の長城

演習

基本的には学生それぞれの興味をゼミの研究テーマに設定し、知りたいことを徹底的に調べ、分析して、考察を重ねて結論を出すということをおこないます。自己鍛錬する演習です。さまざまなテーマが出てきます。一見、大学での研究?って思うようなテーマもありますが、それを研究テーマにしていくのが、演習での研究の醍醐味です。



シドニー→
大学院時代
滞在した街



魅了された当時の上海↑
学生時代



▶ お薦め映画

- 侯孝賢監督(1989) 『悲情城市』
- ウェイン・ワン監督(1993) 『ジョイ・ラック・クラブ』
- フランシス・フォード・コッポラ監督(1972) 『ゴッドファーザー』

など人の内面が描かれた感動するものが好きです。アクション系の映画は、ストレスの解消にお薦めです。たとえば、『ワイルド・スピード』『アベンジャーズ』系。

増田流学びの 解説!!

シンガポール
↓在外研修時に滞在した街



▶ 過去の卒論タイトル

色白が美人だとされる背景 / 音楽と共感: 歌詞の作用の重要性 / 衰退する方言とその価値 / 日本の食品ロスを変えるために / なぜ反日でありながら日本に来るのか / 資本主義システムによる多様性の破壊と先人の知恵 / 親と子のあり方からみる自己肯定感の大切さ

研究

自分の研究テーマは、民族的少数派の人びとの政治参加を通してみえる、その社会の社会的習熟度のようなものを考察していくことです。手法としては、エスニック・ポリティクスや民族的ディアスポラを分析することによって、検証を重ねています。BLM運動やアジアンヘイトがニュースになっていますが、黒人やアジア人などへの差別がどうしたらなくなるのかを考えるのも研究のひとつと考えています。この研究をもとに、「国際政治学」をはじめアジア関係の授業も担当しています。

宮坂 清

Miyasaka Kiyoshi



書をもって、旅にしよう

いま大学生だったらやりたいこと
インドにはまる前に、
アフリカや南アメリカにも行っておきたかった

専攻

グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学
(専門分野) 文化人類学・宗教社会学

「国際文化」との出会い

大学1年の夏にロシア語の先生とソ連に行ったのを皮切りに、長期の休みのたびにヨーロッパ、中東、インド、東南アジア、中国など、ユーラシア大陸を広く旅しました。好奇心の赴くままでこへでも行きましたが、そのうちにインドでの体験が心にずっと居すわっていることに気づき、卒業後しばらく肉体労働と長期インド旅を繰り返すことになりました。写真にある、長期旅行者の集まるゴア、武装闘争ただなかのカシミールでの濃密な体験は、その後の生活や研究の大切な原風景のひとつです。



ゴアの大地に大いに遊ぶ↑
(1995年)

趣味

音楽鑑賞です。20代はゴアトランス、30代も電子音ばかりでしたが、40代は疲れてきて暖かみのある生楽器やポップスを好んで聴いています。

▶ いままで食べたものとも不思議な料理
広州でうっかり食べた犬肉ラーメン



チベット仮面劇の道化と→
(1999年)

←カシミール牧畜民の
小屋にて(1995年)

↓小学生からいままでの自分年表

- 小学校: 剣道に打ち込む
- 中学校: やんちゃな仲間と元気に遊ぶ
- 高校: ロシア文学を読み悶々と過ごす
- 大学: 旅に目覚め、世界の大きさを知る
- 旅: インドに宇宙をみる
- 大学院: 現実に直面し心を病む
- 研究者: 辛くも名古屋学院大学に職を得る

座右の銘 運良くこうなった、感謝しよう

演習

広く国際文化をテーマに、個人研究と共同研究を進めます。とくに重視しているのが協働です。個人研究ではみずから課題を設定し調査・研究を進めていきますが、うまくいかなかったり行き詰まったりすることもあります。そのようなとき、膝を詰めて仲間とそれを話し意見を交わすなかで、思いもよらなかった道が拓かれていきます。個人のピンチは協働により、たいいていチャンスに変えることができます。

↓ラダックで新年の儀礼調査(2006年)



▶過去の卒論タイトル

日本で生活するフィリピン女性の食文化 / 三重弁の歴史と現在 / クールジャパンとは何か: 歴史と現状の分析 / 在日朝鮮人のアイデンティティ / 即席めんの発展: ご当地めんの即席めん化がもつ可能性 / 近代における着物文化の変遷と現状 / アメリカのフィットネス文化について

宮坂流学びの解説!!

↓宮坂ゼミ1期生



研究

インド北端のラダックという地域で、宗教について調べています。すでに20年以上続けていますが、知れば知るほど疑問がわき興味が尽きることがありません。大学院生のころは長期フィールドワークに何度も出かけ、当地のシャーマン(呪術・宗教的職能者)のカッコよさに惹かれ弟子入りを願い出るも、お前には才能がないと断られたことも。それでもめげずにシャーマニズムや民俗信仰の調査を続け、多くのことを学びました。最近は思うようにフィールドワークができずにいますが、文献を読み、当地の宗教とアイデンティティ運動の関わりについて調べています。



↑ラダックのシャーマン調査
(2000年)



←学部の先生方と
ミャンマー調査
(2018年)



ひょうい
南インドでブータ憑依儀礼調査↑
(1999年)

▶お薦め本

拓徹(2016)
『インド人の謎』 星海社新書

これを読めば、インドが何か遠い神秘的の国というイメージからグッと近く感じられるようになるでしょう。トイレの話から、カースト、宗教、貧困、観光、食、音楽まで、カシミール研究者による読みやすいけれど奥の深いインド紹介です。

メイヨール・クリストファー

Christopher Mayo

"Sleep is good....And books are better"

いま大学生だったらやりたいこと
ゲームデザインが好きだったので、
歴史学習用の面白いゲームを作りたい。



専攻 **グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学**
〈専門分野〉 日本文化史・日本中世史・日本史

合気道に夢中になった→
(1995年頃)



↑マレーシア旅行(1997年頃)

「国際文化」との出会い

私の初めての海外体験は大学生の時に訪れたベトナムでした。知り合いがベトナムにいたことからベトナム訪問を思いついたのですが、ビザも取らずに航空券のみ買って経由地の台湾を目指して出発しました。多くの人々に助けられて、台湾のベトナム領事館でビザを取得し、最終的にはベトナムに行くことができました。今から思うと、自分の無計画さ無謀さに冷や汗が出ます。

趣味

日本に来て最初に興味を持ったのは書道でした。今でも時間を見つけては、書を楽しんでいます。また、SFファンで「スター・ウォーズ」(Star Wars)が大好きです。



書道の作品→
「日々是好日」
(1999年頃)

↓小学生からいままでの自分年表

- 小学校: トールキンの小説に夢中
- 中学校: 小説『将軍』で日本文化に出会う
- 高校: 吉川英治の小説にハマる
- 大学: 東洋学を専攻
- 来日: 白川静の漢字研究に魅了される
- 大学院: 中世日本史を研究
- 親になる: 息子とともにボウリングに励む

座右の銘

ひびこれこうじつ
日々是好日
(良し悪しにこだわらず、毎日を幸福に)

演習

自身の文化をより効果的に発信し、異文化をより深く理解するにはどうしたらよいかを一緒に考えます。ゼミ生の関心や興味に合わせて柔軟にトピックを設定しますが、基本的に日本の古典文学から近現代のマンガ、アニメ、ゲームまで広く取り上げます。英語によるプレゼンテーションとディスカッションを通して、英語運用能力とともにより広い視野を育むことを目指します。

クリストファー流
学びの
解説!!

研究

日本文化史が専門領域です。「考え方・価値観」に関する考察が多いです。歴史的な背景からどのようにして考えや価値観が生まれ、それが社会にどんな影響を与え、現代社会とどのように関連しているのかに興味を持っています。

初の愛車はホンダシビック(1989年頃) ↓



▶お薦め本

『三体』

世界的ベストセラーとなった中国SF小説『三体』をぜひ読んでみてください。太陽系と最も近い恒星系に住む「三体星人」(異星人)が地球人との戦いを中心に展開する物語で、実写ドラマ化もされています。

▶お薦め映画

ジョージ・ルーカス監督
『スター・ウォーズ』

もちろん「スター・ウォーズ」です。映画が制作された年代順にみることをお勧めします。



↑リズム音痴の和太鼓姿(1997年頃)



↑個人サイトのリンク

山本 淑雄

Yamamoto Toshio



無為自然

いま大学生だったらやりたいこと
いまも昔もお金がないけど、世界一周かな

専攻 **グローバル文化** / 国際協力・共生 / 国際日本学
(専門分野) ドイツ文学

「国際文化」との出会い

大学生のときに、ドイツ語の原書を読むようになり、世界が広がりました。とりわけドイツ・ロマン主義を研究するようになった結果、ヨーロッパの深層にある文化を知りたくなり、学問のメインストリートから外れるオカルティズム、ヘルメス学、神智学、人智学などに興味をもち、研究を続けています。たぶん変わり者なのでしょう。

趣味

料理、映画・音楽(ロック)鑑賞

- ▶ いままで食べたもつとも不思議な料理
ウツボの刺身(超美味)
- ▶ いままで飲んだもつとも不思議な飲み物
Radler=ビールをリンゴジュースなどで割った飲み物(超不味~い)
- ▶ カルチャーショックを受けた経験
高校生のときにKing Crimsonを聞いたこと
- ▶ ぜひ見てもらいたい世界遺産
水の都ヴェネツィア



こんな
ロブスターを
調理することも

↓小学生からいままでの自分年表

- 小学校: そこそこ元気
- 中学校: かなり憂鬱
- 高校: ひどく憂鬱
- 大学: 解放のとき
- 大学院: ドイツへ留学するが……挫折の連続
- 研究者: 「無知の知」を究めたい
- いま: 老境に入って居直りつつある……

座右の銘 よく学び、よく遊べ

演習

「ロマンと夢」をテーマに、主として『グリム童話』を読んでいます。メルヘンはドイツ・ロマン主義の世界を端的にみせてくれるもので、象徴的な物語の背後に隠された意味を探っています。学生にはメルヘンの世界を通して、夢を追いかけ、ロマンの翼を拡げて欲しい、と考えています。



↑「山本ゼミ」卒業記念写真(2021年)

山本流学びの 解説!!

↓卒業生と一緒に



▶過去の卒論タイトル

グリム童話の魔女に隠された女性心理 / ディズニー・プリンセスから見た女性像 / 時代とファッションの関係 / ハワイの魅力 / ラグビーから見る国際関係 / SNS活用法 / サッカーの歴史と強国 / 東山動物園とフランクフルト動物園の比較

授 業

「基礎ドイツ語」
「発展ドイツ語」
「ドイツ語で学ぶドイツ文化」

これらの授業ではドイツ語の基礎から実践まで教えています。

「欧米地域文化論」

ゲーテの『ファウスト』をもとに、ヨーロッパ文化の歴史と特性について語っています。

▶お薦め本

ヘルマン・ヘッセ(1951)
『デミアン』
新潮文庫

わたしはドイツ文学研究者なので、ヘルマン・ヘッセが1919年に書いた小説をあけておきます。多感な思春期から青年期への思いが、グノーシスという古代の神秘的な思想と絡めて描かれた、青春文学の傑作だと思います。若いときにぜひとも読んでいただきたい1冊です。

▶お薦め映画

『ロード・オブ・ザ・リング三部作』

をあげておきます。長い映画ですが、ファンタジー映画の超傑作です。大学生のころ、原作『指輪物語』(翻訳)を寝るヒマも惜しんで、読みふけていました。映画を観たときは、原作の世界が忠実に描かれている(とくにホビットたち)のに驚き、感動しました。

吉田 達矢

Yoshida Tatsuya



明けない夜はない!

いま大学生だったらやりたいこと

4年間で400本以上の映画を観て、映像作品に携わる職に就く?

専攻

グローバル文化 / 国際協力・共生 / 国際日本学
(専門分野) 歴史学(とくにオスマン帝国史)

↓トルコ人の友人と(2019年)



トルコ長期留学直前→
(2002年春)



↑トルコ長期留学直後
片言のトルコ語で……

↓「歴史好き」は読んでみてほしい

小説・漫画 (著者順)

- 小山ゆう・武田鉄矢
『お〜い!竜馬』(小学館、1986~96年)
- さいとうたかを・戸川猪佐武
『歴史劇画 大宰相』(講談社文庫、1999年)
- 塩野七生
『チェザレ・ボルジアあるいは優雅なる冷酷』(新潮文庫、1982年)
- 司馬遼太郎『項羽と劉邦』(新潮文庫、1984年)
- 田中芳樹『銀河英雄伝説』(トクマ・ノベルズ、1982~87年)
- トールキン『指輪物語』(評論社、1992年)
- 吉川英治『三国志』(講談社、1989年)

座右の銘 **正直に腹を立てずに構わず励め**

「国際文化」との出会い

中学生ごろより国家の興亡に興味をもち、世界史は得意科目でした。大学では史学科に入り、歴史へのさまざまなアプローチ方法や史学史を学び、「太古から現在までのひとの営為」を考察するおもしろさや歴史学の奥深さを知りました。オスマン帝国史を本格的に学ぼうと思ったのは、大学受験のころにようやく読書をはじめ、塩野七生の一連の歴史小説や鈴木董『オスマン帝国：イスラム世界の「柔かい専制」』(講談社現代新書)を読み、「ヨーロッパ」と「アジア」の狭間といえる「東地中海世界」やトルコに魅了されたのがきっかけです。

趣味

趣味といえるか不明ですが、心の琴線に触れるような映画・ドラマ・アニメ・漫画・研究書・論文などに巡り会えるように、つねにアンテナを張っています。

▶カルチャーショックを受けた経験

大学進学で住むことになった大都市「東京」の文化や生活

演習

世界史(日本を含む)や現代国際社会の諸問題について考えていきます。人類のこれまでの軌跡はまだまだわからないことだらけで、「複雑な問題を考えていくこと」に喜びを見出してほしいです。やる気がある学生には、とことん付き合います。なお、演習は教員と学生が一緒につくっていくものと考えているので、学生の意見はできるだけ尊重するようにしています。なので、演習の内容は、学生の性格や興味などによって毎年変わります。



↑大好物のトルコ料理

▶過去の卒論タイトル

近代世界のジェノサイド比較/時代とともに変化するヒロイン像/ディズニーの「悪役」ヴィランズ:その「本性」について考える/日韓ゴルフ文化の違い/日本におけるハラール食のあり方/ムン・ジェイン政権の新北方政策の意味と目的について



←卒論提出のお祝いの席で学生からのサプライズ

吉田流学びの
解説!!

大統領府オスマン文書館↓



研究

オスマン帝国は13世紀末から600年以上存続したイスラーム国家です。最盛期の領土は、バルカン半島のほとんど、中東地域の西半分、北アフリカ沿岸などに及びました。オスマン帝国史研究の醍醐味は、さまざまな宗教・宗派、言語、民族など、多様な要素が混在する社会において、人びとはどのように「共存」したのかを考察することにあるでしょう。また、オスマン帝国史の特徴のひとつは、オスマン語などで書かれた文書が1億点以上も残存していることです。それらの「ナマの史料」を読解していくとき、歴史学研究の「真のおもしろさ」を実感します。

▶お薦め本

大津留厚(1995)
『ハプスブルクの実験』 中公新書
19世紀後半のハプスブルク帝国が、国内に多数の民族(言語)集団を抱えるなかで、帝国を維持するためにいかなる政策を試行したのかを考察した歴史学の新書。読んだのは大学院生のときで、「このような歴史学研究をしたい」と知的に興奮したことを覚えています。

▶お薦め映画

クリストファー・ケイン監督(1988)
『Young Guns(ヤングガン)』
アメリカ西部開拓時代の伝説的アウトロー「ピリー・ザ・キッド」を主人公とする、私が歴史上のアウトローや義賊という存在に興味を持つきっかけとなった「カッコいい」映画です。続編もあります(「ヤングガン2」(1990))。

国際文化学部編

小田中直樹(2022)

『歴史学のトリセツ:歴史の見方が変わるとき』筑摩書房(ちくまプリマー新書)

歴史がつまらないという人は残念ながら結構いる。では、なぜそう感じてしまうのか?その理由を教科書から探り、さらには教科書が書かれる元となる歴史学から解き明かそう。歴史学の考え方を知れば、歴史が面白くなるに違いない!

川原繁人 feat. Mummy-D・晋平太・TKda黒ぶち・しあ(2023)

『言語学的ラップの世界』東京書籍

日本語ラップを題材に、人気ラッパーたちの感覚的な押韻が音声学的にも理にかなっていることを音声学者が解き明かして、楽しく音声学を学べる。

熊谷はるか(2021)

『JK、インドで常識ぶっ壊される』河出書房新社

父親の転勤によりインドに移住した高校生の回顧録。戸惑いながらもさまざまな経験を通して社会課題への関心を高めていく。

佐藤文香監修(2019)

『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた:あなたがあなたらしくられるための29問』明石書店

ジェンダーにまつわる制約から解放され、自分らしく生きていくため、大学生が「大学生の視点」で29の質問に答える。

鳥飼玖美子(2021)

『異文化コミュニケーション学』岩波書店(岩波新書)

多くの海外ドラマの具体的なセリフから、現代社会における異文化コミュニケーションのあり方を考察している。

内藤理恵子(2022)

『新しい教養としてのポップカルチャー』日本実業出版社

日本の新しい教養としてマンガ・アニメ・ゲームを取り上げ、それらに込められている多様なメッセージを読み解いていく。

堀元見・水野太貴(2023)

『復刻版 言語オタクが友だちに700日間語り続けて引きずり込んだ言語沼』Value Books

例えば、「話に「尾ひれ」が付く」と言うが、魚の体の一番後ろのひれは「尾ひれ」と言う。何が違うか?など身近な話題をきっかけに、言語学の面白さに引きずり込まれる。

グローバル文化専攻編

大澤真幸(2022)

『この世界の問い方:普遍的な正義と資本主義の行方』朝日新聞出版(朝日選書)

「アメリカの変質」など時事的な問題を掘り下げ、事象の裏にある真因は何か、未来をより良くする可能性はどこにあるのかを考える。

藤本高之・金子遊編(2018)

『映画で旅するイスラーム:知られざる世界へ』論創社

全世界17億人。アジアからアフリカまで国境、民族、言語を越えて広がるイスラームの世界。30カ国以上からよりすぐりの70本。映画を楽しみ、多様性を知る。

御手洗昭治編著・小笠原はるの著(2019)

『グローバル異文化交流史:大航海時代から現代まで、ヒト・モノ・カネはどのように移動・伝播したのか』

明石書店

異文化交流の歴史を大航海時代に遡り、ヒト・モノ・カネ・情報がいかに世界に広まり、経済や文化にどのような影響を与えたかを解き明かす。

みの(2021)

『戦いの音楽史:逆境を越え世界を制した20世紀ポップスの物語』KADOKAWA

20世紀になって登場したポピュラー音楽の歴史を振り返り、一つひとつの音楽が生まれた背景について丁寧に解説してくれる好著。

国際協力・共生専攻編

申恵丰(2020)

『友だちを助けるための国際人権法入門』影書房

身の回りの理不尽なことが、国際人権法ではどのように規定されているか、人権問題として理解するための1冊。

高橋進(2021)

『生物多様性を問いなおす:世界・自然・未来との共生とSDGs』筑摩書房(ちくま新書)

蚊を根絶させることはできる? 日本にオオカミの再導入が検討されている? 興味深いエピソードを交えて「生物多様性」を解説した1冊。

鳥井一平(2020)

『国家と移民:外国人労働者と日本の未来』集英社

少子高齢化が進んだ日本の「次の社会」の持続可能性は、外国人労働者の存在なしには考えられなくなっている。外国人と共生する社会を考える。

松本悟・佐藤仁編(2021)

『国際協力と想像力:イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社

国際協力を「する側」と「される側」が描くイメージは、時として現場とギャップがある。このギャップを埋める「想像力」を磨き、自由な発想を受け入れられる寛容な社会につなげてみたい。

国際日本学専攻編

内田宗治(2018)

『外国人がみた日本:「誤解」と「再発見」の観光150年史』中央公論社(中公新書)

日本側が「見せたい文化」と外国人が「見たい文化」はいかにせめぎ合ってきたか、外国人観光客誘致の歴史を描く。

クーリエ・ジャポン編(2022)

『海外メディアは見た 不思議の国ニッポン』講談社(講談社現代新書)

なぜ銀メダルを取ったのに日本人選手は謝罪するのか。外国人の目線から日本の文化や慣習を眺め、自己を相対化する試み。

ベンジャミン・ボアズ(2022)

『日本はクール!?』クロスメディア・パブリッシング

クールジャパンとはそもそも何なのかについて考え直し、その魅力を正しく世界に発信するにはどうすればよいかを解説する。

本田由紀(2021)

『「日本」ってどんな国? 国際比較データで社会が見えてくる』筑摩書房(ちくまプリマー新書)

各種の国際比較データをていねいに検討することで、日本社会が抱える多様な特性や課題を明らかにする。

国や地域が異なる人びととの国際交流を通じて、互いの考えや文化の違いを知り、時々刻々変化する世界情勢の読み解き方を学びたいなら、地図を片手に学部の国際文化案内人と旅立とう

世界中が教室に
日本も海外も気になる人のための
国際文化案内人図鑑

企画・構成・文 : 国際文化学部教員一同
編集 : 国際文化学部教員有志
デザイン : erk_graphic_design
発行 : 名古屋学院大学
発行日 : 2021年9月15日 第1版
2026年3月31日 第5版

 **名古屋学院大学**

国際文化学部

〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町1番25号
TEL 052-678-4080(代表)



この冊子は
本学部のウェブサイトでも
ご覧いただけます



NGU Cross
学部ニュース&イベント情報(Microsoft
学内アカウントでのログインが必要)



YouTube
国際文化学部
チャンネル